

株式会社ヨータイ

2023年3月期

決算説明資料

2023年5月25日

証券コード：5357

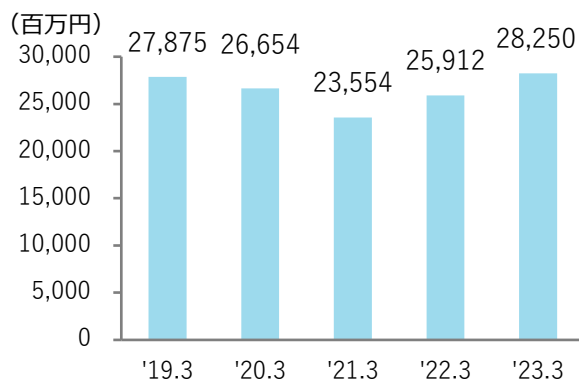
2023年3月期連結決算概要

- 主要得意先である鉄鋼メーカー向けの需要が堅調だったことなどで売上高は前期比+9.0%の増収となり、過去最高を記録。
- ウクライナ情勢、円安などを要因とする原燃料価格の高騰などを販売価格に転嫁、コストダウンなどで対応したが営業利益は前期比▲1.9%の減益、経常利益は保有株の売却益もあり前期比+0.5%の増益。
- エンジニアリング事業は、キャリア採用などで人員の拡大を図り、多くの工事物件に対応し、売上・利益ともに過去最高を記録。

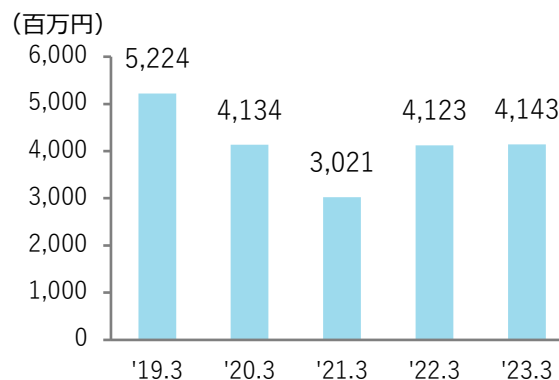
(百万円)

| | 2022.3期 | 2023.3期 | 前期比 | |
|--------------------------------|------------------|-------------------------|--------|-------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 25,912 | 28,250 | +2,338 | +9.0% |
| 営業利益 (売上高営業利益率) | 4,089 (15.8%) | 4,012 (14.2%) | ▲76 | ▲1.9% |
| 経常利益 (売上高経常利益率) | 4,123 (15.9%) | 4,143 (14.7%) | +20 | +0.5% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 (売上高当期純利益率) | 2,966 (11.4%) | 2,971 (10.5%) | +4 | +0.1% |

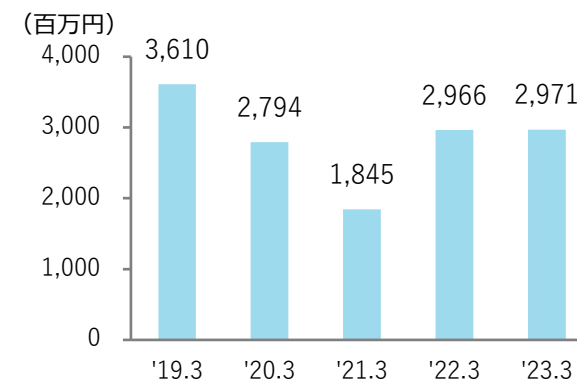
売上高



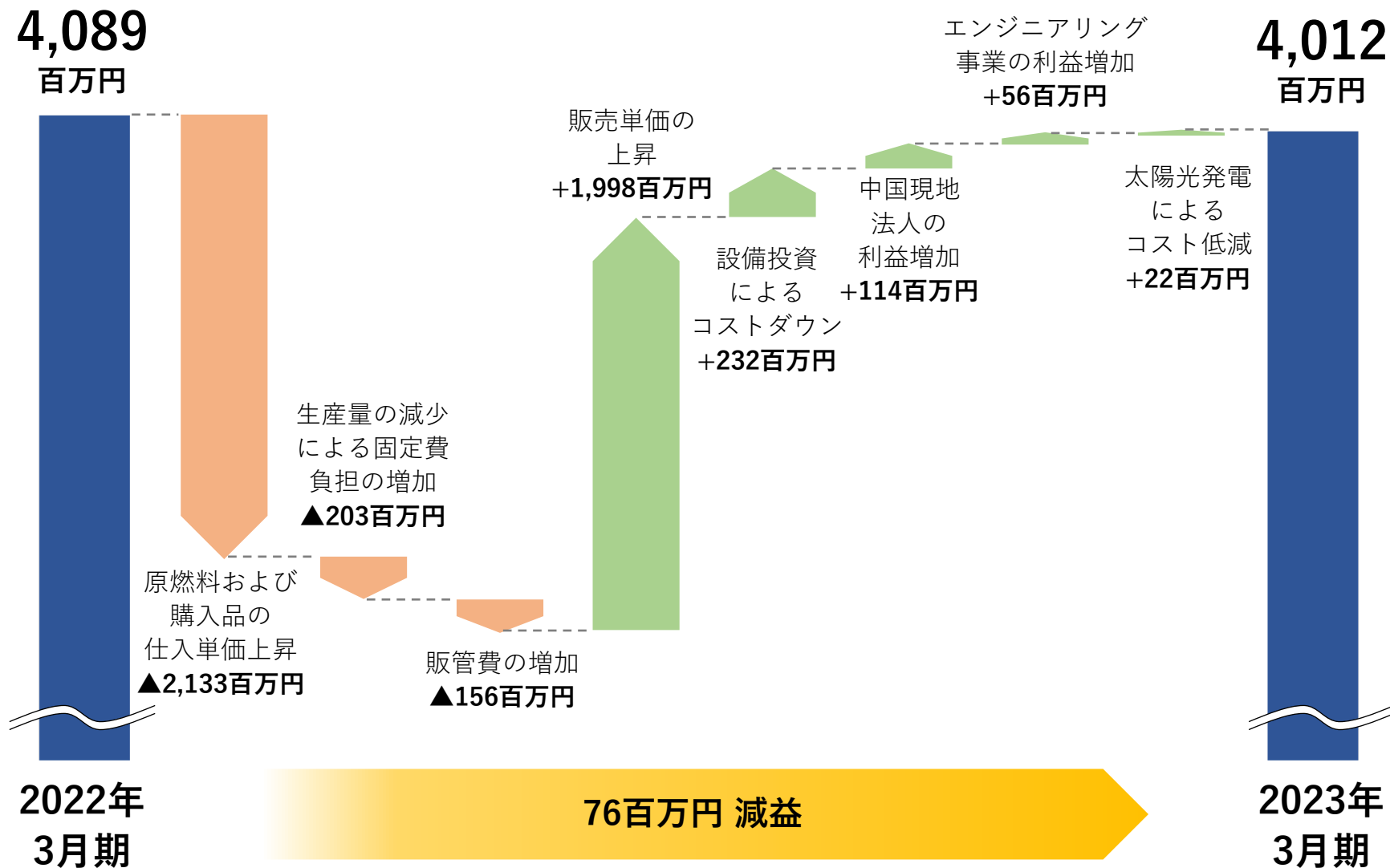
経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益

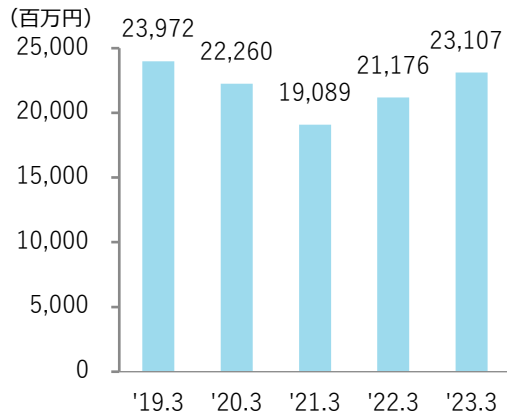


連結営業利益増減要因分析（前期比）

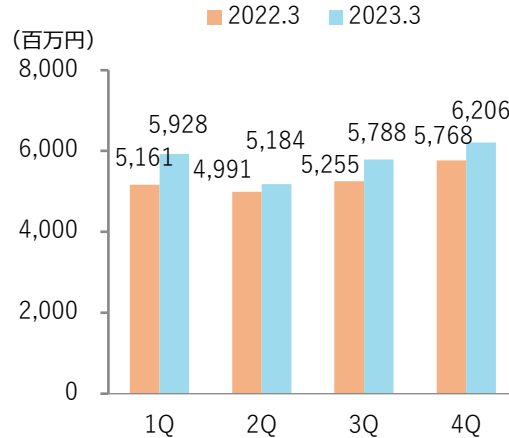


売上高は前期比9.1%増の23,107百万円、セグメント利益は前期比0.5%増の4,932百万円

売上高



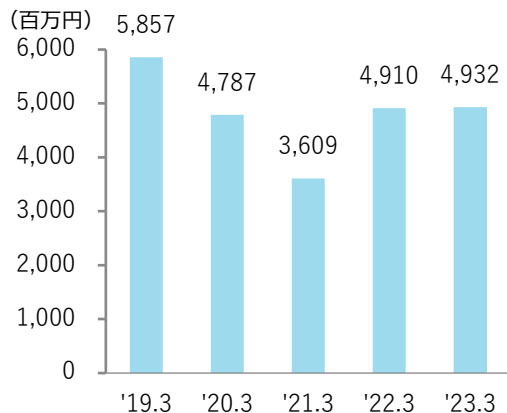
売上高 (四半期ごと)



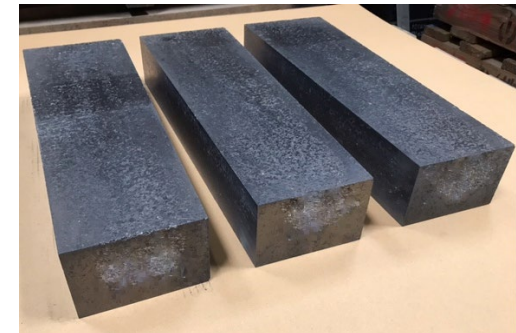
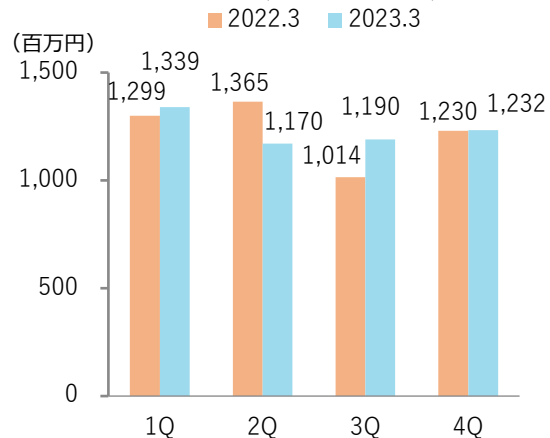
当期のハイライト

- 鉄鋼：電炉メーカーからの受注が堅調に推移
- セメント：シェアアップによる受注増
- 非鉄金属：非鉄金属メーカーの生産が回復し受注が増加
- 環境装置：プラントメーカーへの営業活動を積極化し、新規案件の受注が増加
- 電子部品：スマートフォン向けの需要が低迷したものの、EV向け需要が増加

セグメント利益



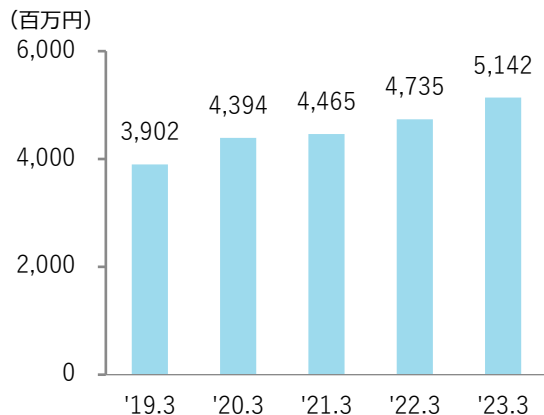
セグメント利益 (四半期ごと)



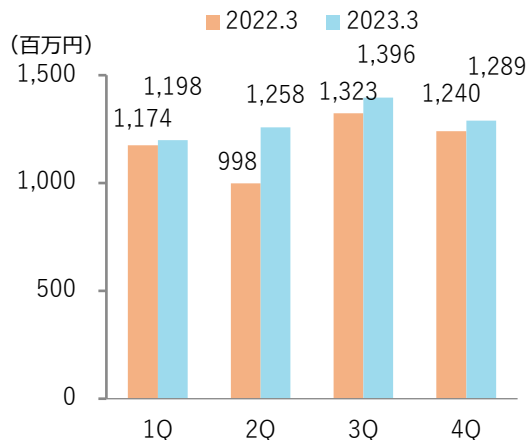
マグカーボンレンガ

売上高は前期比8.6%増の5,142百万円、セグメント利益は前期比7.7%増の771百万円と過去最高の売上・利益を記録

売上高



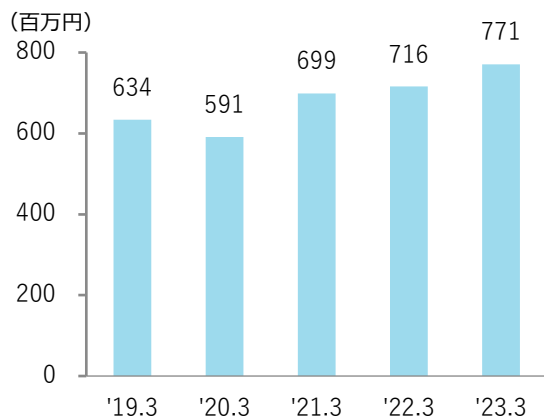
売上高 (四半期ごと)



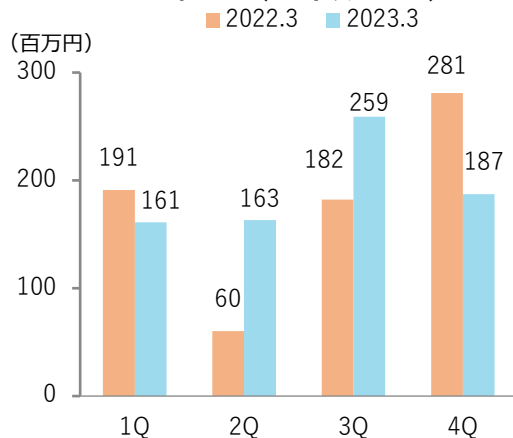
当期のハイライト

- 材工一式の強みを活かした積極的な営業活動を行い売上・利益は増加
- 環境装置向け新規案件の受注が増加、今後のメンテナンス売上の増加にも期待
- 人財の採用・育成が進み、大型・新規案件の受注が増加
- 施工が容易な乾式吹付工法を導入し、業務の効率化も推進

セグメント利益



セグメント利益 (四半期ごと)



取鍋の施工

連結貸借対照表

(百万円)

| | 2022.3期 | 2023.3期 | 増減 | 主な増減要因 |
|-------------------------|---------------|---------------|---------|---|
| 流動資産 | 30,282 | 29,937 | ▲345 | 現金及び預金 ▲2,696 受取手形及び売掛金 +351 製品 +1,032 原材料及び貯蔵品 +1,304 |
| 固定資産 | 8,468 | 9,708 | +1,240 | 建物及び構築物 +491 機械装置及び運搬具 +311 建設仮勘定 ▲364 投資有価証券 +468 |
| 総資産 | 38,750 | 39,645 | +895 | |
| 流動負債 | 7,236 | 6,920 | ▲315 | 買掛金 ▲261 電子記録債務 +229 未払金 ▲377 |
| 固定負債 | 1,404 | 1,659 | +254 | 退職給付に係る負債 +59 |
| 負債合計 | 8,640 | 8,580 | ▲60 | |
| 純資産合計 | 30,109 | 31,065 | +955 | 利益剰余金 +2,011 自己株式 ▲1,476 |
| 負債・純資産合計 | 38,750 | 39,645 | +895 | |
| 自己資本比率 | 77.7% | 78.4% | +0.7pts | |
| ROE (自己資本当期純利益率) | 10.0% | 9.7% | ▲0.3pts | |

(百万円)

| | 2022.3期 | 2023.3期 | 当期の主な内容 |
|----------------------|---------|---------------|---|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 421 | 1,781 | 税金等調整前当期純利益 +4,089 減価償却費 +1,046 棚卸資産の増加 ▲2,409 法人税等の支払額 ▲1,292 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | ▲1,208 | ▲1,954 | 有形固定資産の取得による支出 ▲1,897 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | ▲2,111 | ▲2,536 | 自己株式の取得による支出 ▲1,538 配当金の支払額 ▲956 |
| 現金及び現金同等物に 係る換算差額 | 45 | 12 | |
| 現金及び現金同等物の 増減額 | ▲2,853 | ▲2,696 | |
| 現金及び現金同等物の 期末残高 | 8,537 | 5,841 | |

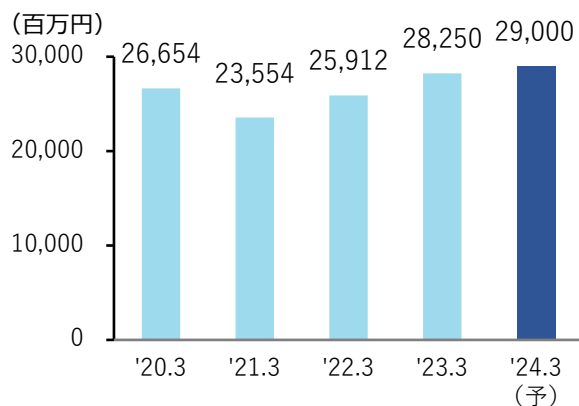
2024年3月期連結業績予想

- 鉄鋼向けの需要が堅調に推移すると想定し、売上高は前期比2.7%の増収、経常利益は同1.4%の増益を見込む。
- 引き続き、ロシア・ウクライナ問題などを背景とした原材料価格・エネルギー費の高騰や為替相場の変動などの不透明要因に注視が必要。

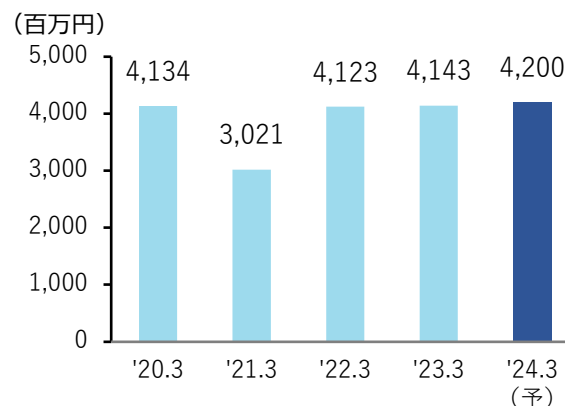
(百万円)

| | 2023.3期 | 2024.3期 予想 | 前期比 | |
|--------------------------------|------------------|-------------------------|------|-------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 28,250 | 29,000 | +749 | +2.7% |
| 営業利益 (売上高営業利益率) | 4,012 (14.2%) | 4,100 (14.1%) | +87 | +2.2% |
| 経常利益 (売上高経常利益率) | 4,143 (14.7%) | 4,200 (14.5%) | +56 | +1.4% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 (売上高当期純利益率) | 2,971 (10.5%) | 3,000 (10.3%) | +28 | +1.0% |

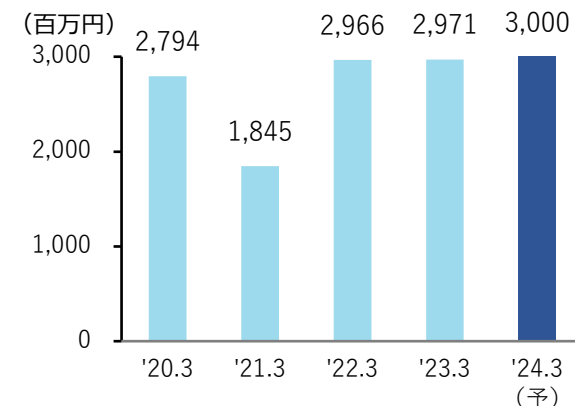
売上高



経常利益

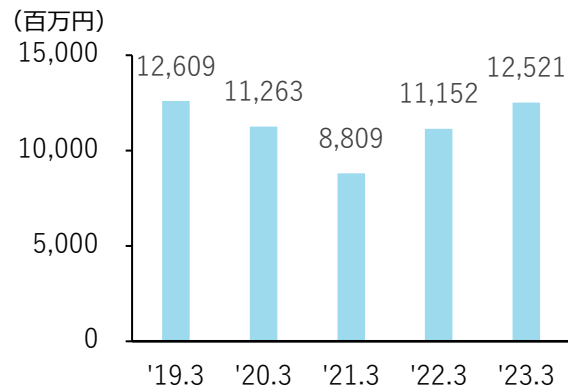


親会社株主に帰属する当期純利益

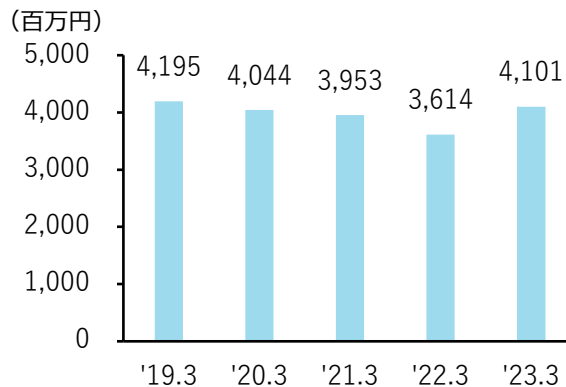


業種別売上実績【単体】と見通し

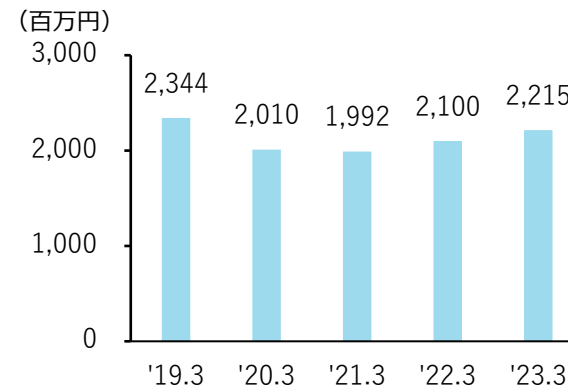
鉄鋼



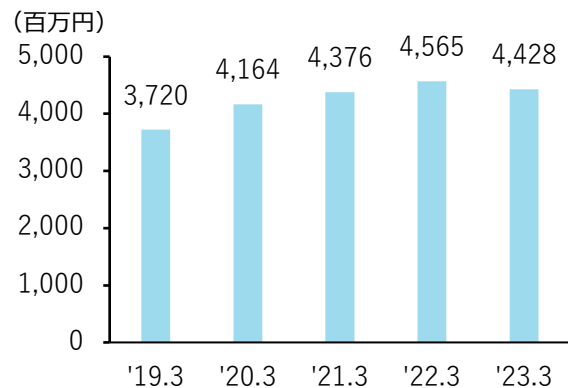
セメント



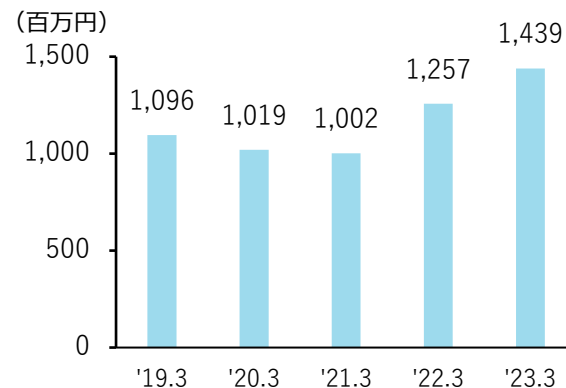
非鉄金属



環境装置



電子部品



| | 23.3期 実績 | 24.3期 見通し |
|------|-------------|--------------|
| 鉄鋼 | ➡ | ➡ |
| セメント | ➡ | ➡ |
| 非鉄金属 | ➡ | ➡ |
| 環境装置 | ➡ | ➡ |
| 電子部品 | ➡ | ➡ |

第一次中期経営計画の進捗と 今後の戦略



貝塚工場の太陽光発電設備
(2022年2月稼働)



瑞浪工場の太陽光発電設備
(2022年11月稼働)

第一次中期経営計画（2021年度-2023年度）

「目指す企業像」の実現に向けて体制作りを行う期間

基本戦略・重点施策

高い収益力・高い財務健全性の維持を図りながら、ヒト・モノ・情報などへの投資を行い、持続的成長を支える経営基盤を構築する。

収益力の維持

1

製品・サービスの質の向上による売上拡大

製品

- 他社に勝る差別化製品の展開

技術営業

- 技術サービス体制の強化

顧客対応

- 営業拠点の増設による顧客へのきめ細かい対応

2

低コスト・安定供給体制の強化

原料調達

- 原材料・エネルギー調達力の強化

合理化・効率化

- 合理化設備への積極投資
- 人員配置の最適化
- DXの推進

3

新たな収益源の育成

開発体制

- 研究開発体制の構造改革による次代を担う製品開発体制の強化

外部連携

- 顧客との技術交流に基づく新製品開発

ESG経営の推進

4

ESGの推進による経営基盤の構築

E：環境

- CO₂排出の少ない製造プロセスの構築
- 省エネルギー、脱炭素を見据えた設備投資

S：社会

- 健康経営の推進による従業員の活力向上・組織の活性化・生産性の向上

G：ガバナンス

- ガバナンスの体制改革と実効性強化
- 情報開示の充実とステークホルダーとの対話

第一次中期経営計画期間中の業績推移

(百万円)

| | 2021.3期 実績 | 2022.3期 実績 | 2023.3期 実績 | 2024.3期 業績予想 | 2024.3期 中計目標 |
|------------------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|--------------------------|
| 売上高 | 23,554 | 25,912 | 28,250 | 29,000 | 26,000 |
| 営業利益 (売上高営業利益率) | 2,921 (12.4%) | 4,089 (15.8%) | 4,012 (14.2%) | 4,100 (14.1%) | 3,500 (13.5%) |
| 経常利益 (売上高経常利益率) | 3,021 (12.8%) | 4,123 (15.9%) | 4,143 (14.7%) | 4,200 (14.5%) | 3,600 (13.8%) |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 (売上高当期純利益率) | 1,845 (7.8%) | 2,966 (11.4%) | 2,971 (10.5%) | 3,000 (10.3%) | 2,400 (9.2%) |
| ROE | 6.6% | 10.0% | 9.7% | — | 8% |
| 連結配当性向 | 20.1% | 30.4% | 30.5% | 32.7% | 30% |

← 第一次中期経営計画 →

中期経営計画の各施策を着実に実行し、数値目標を上回るペースで推移

- ✓ 原材料価格・エネルギー費の高騰があったものの、鉄鋼など主要分野で回復した需要を確実に取り込んだ結果、増収・増益
- ✓ 材工一式の強みを持つエンジニアリング事業が過去最高の売上・利益を達成
- ✓ ヒト・モノ・情報への投資は、ほぼ計画通りに進捗
 - ヒト：技術営業の人員を増強するとともに育成体制を強化、新人事評価制度を導入
 - モノ：大型プレス機、太陽光発電設備など、投資効果の高い設備を導入
 - 情報：基幹システム（名称：未雲）の2023年10月からの稼働に向け導入準備を推進、加えて、AI-OCRとRPAの活用を進め労働時間の削減を継続
- ✓ 地政学リスクの高まりに伴いBCPの観点から在庫の積み増しを実施し、安定供給体制を強化
- ✓ 柴田窯業原料（株）の耐火物原料の製造事業を譲受し、当社瑞浪工場土岐製造所として操業開始、リサイクル原料生産の評価試験にも着手

環境負荷の低い新製品を開発し、今後の販売拡大に向けて 技術営業の採用・育成体制を強化

製品

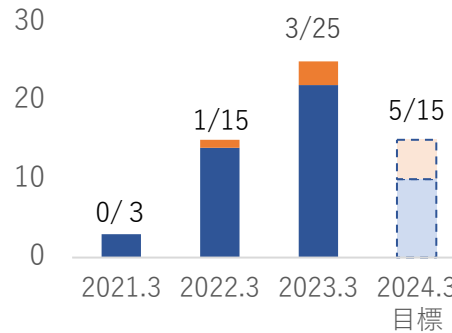
- 低CO₂排出不定形耐火物を開発、拡販
 - 炭化珪素質EPCシリーズ (耐爆裂性キャストブル)
 - クロミア系EPCシリーズ (耐爆裂性キャストブル)
 - 乾式吹付EPCキャストブル (耐爆裂性乾式吹付キャストブル)
- 低CO₂排出不焼成耐火物を開発、拡販
 - コルナFX・コルナFX2 (耐アルミニウム不焼成れんが)
- 循環型社会対応耐火物を開発、拡販
 - S-KK1 (貝殻を使用した塩基性不定形耐火物)
- 省エネルギー不定形耐火物を開発、拡販
 - CFC-LTC-ML・CFC-DGLTC-ML (低熱伝導性耐アルカリ塩キャストブル)

技術営業

- 技術力向上に向けたキャリア人材を採用

技術営業員数

(うち技術営業員数/キャリア採用員数)



- 技術サービス員の育成が順調に進んだことで、新規・大型案件を滞りなく遂行

顧客対応

- 北海道地区における営業体制を拡充したことで、新規開拓に成果
- エンジニアリング事業部貝塚出張所の増員により、関西地区の基幹工事への対応を強化



地政学リスクに備え、大型プレス機、高効率プレス機を順次導入し、国内での低コスト生産体制を強化

原料調達

- 中国リスクを低減するため、瑞浪工場、吉永工場のレイアウト変更により原料保管スペースを確保し、約8か月分の原料を備蓄
- 2022年10月に柴田窯業原料の耐火物原料の製造事業を譲受し、当社瑞浪工場土岐製造所として操業開始
 - リサイクル原料生産の評価試験に着手



瑞浪工場土岐製造所

合理化・効率化

- 各工場へ大型プレス機、高効率プレス機を導入し生産性を向上
 - 日生：3,000T (2022年4月稼働)
1,000T (2023年9月稼働予定)
 - 吉永：1,500T (2022年8月稼働)
 - 貝塚：1,500T自動化 (2023年6月稼働予定)
1,000T (2024年2月稼働予定)
 - 瑞浪：850T高効率化 (2022年9月稼働)

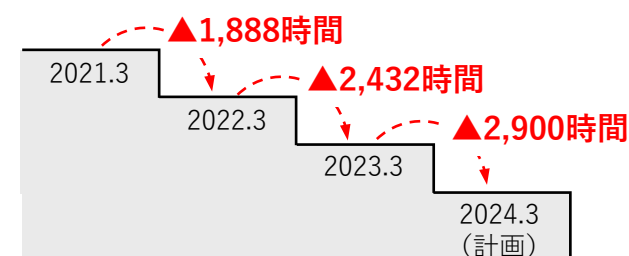


吉永工場1,500Tプレス完成式

- 焼成温度管理と省エネルギー推進に向け、貝塚工場のトンネルキルンを見える化

- 基幹システム（名称：^{みくも}未雲）は2023年10月稼働予定。併せて情報セキュリティの強化を順次進めている。
- AI-OCRとRPAの活用を進め、労働時間の削減を継続

労働時間削減の推移



- 2024.3期は経理部門での適用範囲の拡大と労務部門での活用を開始する。

競争力の高い新製品の研究開発力を高めるための構造改革を実施し、CO₂排出削減に貢献する新製品開発を推進

開発体制

- 研究・開発・技術サービス員の増強による研究開発のスピードアップおよび顧客への迅速な技術対応
 - 技術研究所 1名増員
 - 新材料研究所 1名増員
 - 2024年3月期も2名以上の増員を計画
- 高性能耐火物、高性能電子部品焼成用道具材、合成粉体製造、リサイクル原料製造等の研究開発テーマの推進
- 製造プロセスで大量消費する化石燃料の非化石燃料へ置換するための基礎技術の構築
- 高性能装置の導入
 - 高温X線回折装置の導入
- カーボンニュートラルに向けた不定形耐火物・不焼成れんがの開発
 - 炭化珪素質EPCシリーズ
(炭化珪素質耐爆裂性キャストブル)
 - クロミア系EPCシリーズ
(クロミア含有耐爆裂性キャストブル)
 - 乾式吹付EPCキャストブル
(耐爆裂性乾式吹付キャストブル)
 - コルナFX・コルナFX2
(耐アルミニウム不焼成れんが)



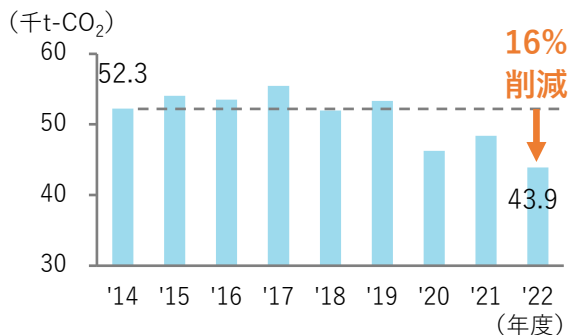
高温X線回折装置

CO₂排出削減に向けた各種取り組みを行うとともに、働き方改革とDXを推進

E (環境)

- 太陽光発電設備の設置
 - 2023.3期
瑞浪工場に660kW級を設置
 - 2024.3期～2025.3期
日生工場に775kW級を設置予定
- バッテリーリフトの導入
 - 2023.3期 EV化率43%
 - 2024.3期 EV化率50%予想
 - 2030年まで EV化率100%目標
- 業務用EV乗用車の導入
 - 2023.3期時点 2台
- サステナビリティ基本方針、マテリアリティ、TCFD提言に基づく気候関連情報を2022年6月に開示

GHG排出量 (Scope1+2) 2030年度までに30%削減を目指す (2014年度対比)



S (社会)

- 人権
 - コンプライアンス教育の取り組みを継続的に実施
- ダイバーシティ
 - 女性活躍推進に向け、実態調査のためのアンケートの実施を決定
- 働きやすい職場づくり
 - 働き方改革を推進し、勤怠管理システム導入による労働時間管理を徹底
 - 2022年4月より持続的成長型給与制度に基づく新人事評価システムの運用を開始
 - 職場改善に向けたエンゲージメントサーベイを実施、随時、改善策を実施予定
 - 従業員の処遇改善 (ベースアップ・休日増加、持株会の奨励金増加)
 - 総合職向けにEラーニングを実施 (DX・マネジメント、699講)
- 健康経営の推進
 - 2024年の健康経営優良法人認定に向け取り組み中
- 持続的な成長に向けて
 - 従業員の新規採用を積極化
 - 新卒社員の初任給を増額

G (ガバナンス)

- 監査等委員会設置会社への移行を決定 (2023年6月の定時株主総会に付議)
- 内部監査室の専任スタッフを1人増員し、内部監査体制を強化

コーポレートガバナンス強化の変遷

| | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|--------|-----------------|-------------|---------------|------------------|
| 社長 | 田口三男 (2019年6月～) | | | |
| 取締役会 | 5名 (内、社外1名) | 6名 (内、社外2名) | 6名 (内、社外2名) | 6名 (内、社外2名、女性1名) |
| 監査役会 | 5名 (内、社外3名) | | | |
| 任意の委員会 | | | 指名・報酬諮問委員会を設置 | |
| 役員報酬 | | | 譲渡制限付株式報酬制度導入 | |
| その他 | | 執行役員制度導入 | | 年に1度取締役会実効性評価を実施 |

デジタル技術活用による自動化で鉄鋼、非鉄金属、環境装置、電子部品などの分野でさらなる成長を目指すとともに、建設業・物流業の2024年度問題に対応

耐火物事業

- グリーンスチール用電気炉向けの需要の取り込み
- 大型プレス機の活用による製品の安定生産と生産性の向上（日生工場、吉永工場）
- 高効率プレス機の活用による電子部品焼成用道具材の品質、生産性の向上（貝塚工場、瑞浪工場）
- 塩基性不定形製造ライン増設による生産性の向上（日生工場）
- 太陽光発電設備を設置（日生工場）
- 新倉庫建設による原材料備蓄体制の確立（日生工場、貝塚工場）
- 原燃料価格の高騰、為替の変動によっては製品価格の改定を検討
- LiB用焼成道具材の生産能力向上（瑞浪工場）

エンジニアリング事業

- 建設業2024年度問題への対応
- 機動力向上に向け、東京への拠点設置を検討
- 継続的な人員採用・育成、技術伝承に注力
- 協力会社との関係強化、新規開拓
- 遠隔支援デバイスによるスーパーバイザー支援
- バックオフィス充実の検討
- 熱中症対策の強化

営業支援活動

- ドローン、熱間オーバリティ等の活用による新規顧客の開拓
- 遠隔支援デバイスによる営業活動支援
- 基幹システム 未雲の活用による業務効率化
- Eラーニングを活用したスキルアップ
- 海外展開に向けた情報収集を開始

投資スケジュールと進捗状況

■ 準備期間 ■ 本稼働

| | | 2022年3月期 | | 2023年3月期 | | 2024年3月期 | | 進捗状況 |
|----------------------|-----------------------------------|----------|----|----------|----|----------|----|---------------|
| | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | |
| ● ヒト | | | | | | | | |
| 採用 | 積極的なキャリア人材の採用 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| | スカウト型の採用方法導入 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| 育成 | 人事評価制度の改定・実施 | | | | | | | 2022年4月より実施 |
| | スキル向上プログラムの作成・実行 | | | | | | | 2023.3期より準備着手 |
| 管理 | 労務時間管理システムの活用 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| | 人事情報の一元化・活用 | | | | | | | 2023.3期より実施 |
| | 健康経営の推進 | | | | | | | 引き続き準備を実施 |
| ● モノ | | | | | | | | |
| 大型高圧プレス導入 | 1,500T以上のプレス設置 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| 新製品開発設備 | 組織解析装置の導入 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| | 特性評価設備の導入 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| | 電子部品向け製品の表面改質装置導入の検討 | | | | | | | 引き続き検討を実施 |
| 工業炉点検方法の多様化 | 工業炉点検用ドローンの導入 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| CO ₂ 排出削減 | 太陽光パネルの設置 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| | バッテリーリフト、電気自動車の導入 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| ● 情報 | | | | | | | | |
| DX推進 | RPA・AI-OCR等の先端ICT活用による業務効率化 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| | 営業支援システム導入による顧客対応力向上 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| | 労働時間管理システム導入による働き方改革 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| | 人事管理システム導入によるタレントマネジメント推進 | | | | | | | ほぼ計画通りに進捗 |
| | エンジニアリング事業部のマニュアル作業のシステム化による組織力向上 | | | | | | | 引き続き検討を実施 |
| | 基幹システム刷新による業務効率化・生産性向上（未雲） | | | | | | | 2023年10月稼働予定 |
| ● その他 | | | | | | | | |
| | 関連分野でのM&A投資など | | | | | | | 引き続き検討を実施 |

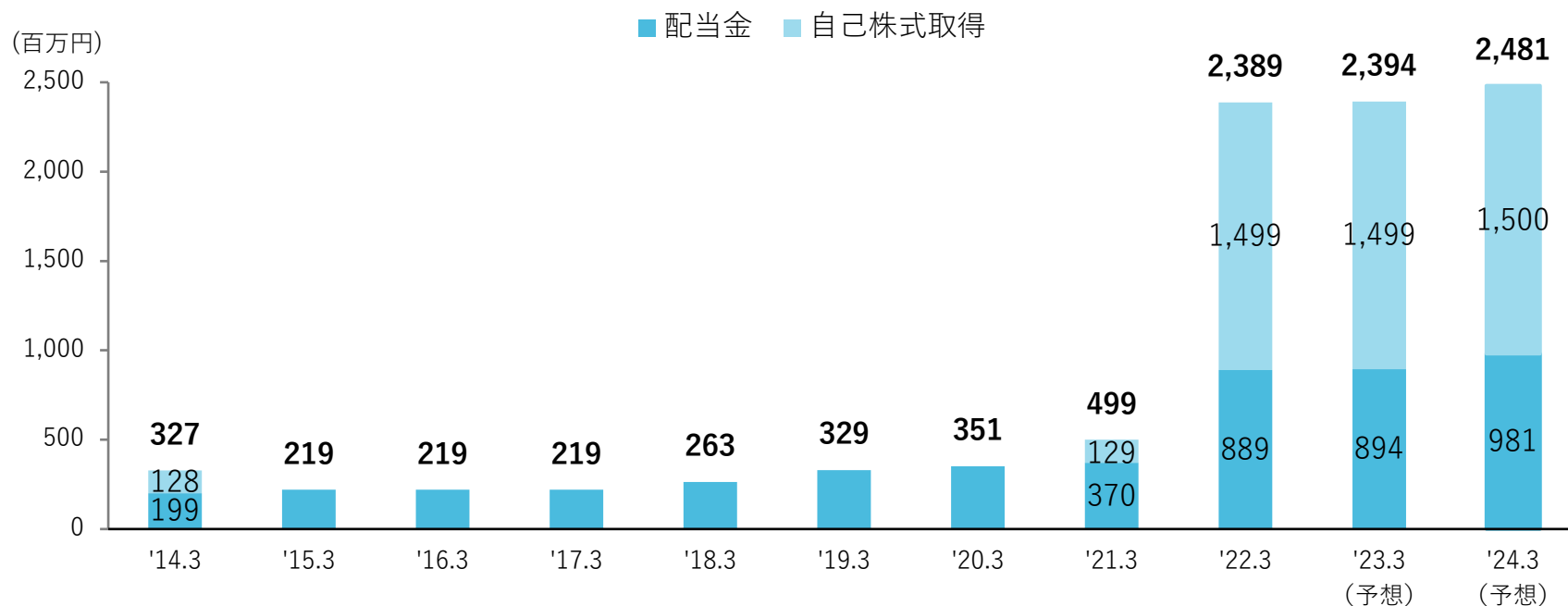
投資、株主還元への資金配分を強化

| 3年間の累計 | | 内容 | 2022.3実績 | 2023.3実績 | 2024.3計画 |
|------------|--------------|---|----------|---------------|---------------|
| 投資 50億円 | 更新投資 14億円 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 合理化、効率化投資 | 3.3億円 | 6.5億円 | 3.1億円 |
| | 戦略投資 23億円 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 戦略的な設備の導入 ■ 脱炭素投資 ■ BCP投資 | 5.2億円 | 9.7億円 | 11.2億円 |
| | IT投資 4億円 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 情報システム投資 | 0.6億円 | 0.8億円 | 2.7億円 |
| | その他 9億円 | <ul style="list-style-type: none"> ■ M&A投資および上記に含まれない投資 | — | 1億円 | — |
| 株主還元 | | <ul style="list-style-type: none"> ■ 株主還元を強化 (連結配当性向30%を目標) | 30.4% | 30.5% (予想) | 32.7% (予定) |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ■ 機動的な自己株式の取得 | 15億円 | 15億円 | 15億円 (予定) |

※上記以外の投資についても、内容、金額を精査し、適宜検討していく方針

連結配当性向 30%を目標にするとともに、 機動的な自己株式の取得を行う

配当金および自己株式取得額



| | 14.3 | 15.3 | 16.3 | 17.3 | 18.3 | 19.3 | 20.3 | 21.3 | 22.3 | 23.3 (予想) | 24.3 (予想) |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-----------|-----------|
| 1株当たり配当金 (円) | 9.0 | 10.0 | 10.0 | 10.0 | 12.0 | 15.0 | 16.0 | 17.0 | 43.0 | 45.0 | 50.0 |
| 連結配当性向 | 25.2% | 23.8% | 23.5% | 16.0% | 10.1% | 9.1% | 12.6% | 20.1% | 30.4% | 30.5% | 32.7% |

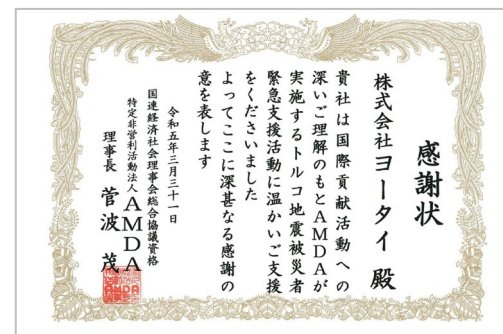
SDGsの実現に向け、ヨータイとして何が出来るかを考え、実行してまいります。

備前市のまち・ひと・仕事創生 寄附活用事業に寄附



300万円を寄附しました。

トルコで発生した 地震に対する支援



100万円を寄附しました。

日生町漁協と包括協定式



アマモ場の造成や海洋環境を守る活動に参加していきます。

里海を守る アマモ場再生計画への協力



アマモ回収・種付け養殖事業に参加しました。

吉永工場 地域の清掃活動



工場周辺の金剛川の清掃活動を行いました。

Appendix

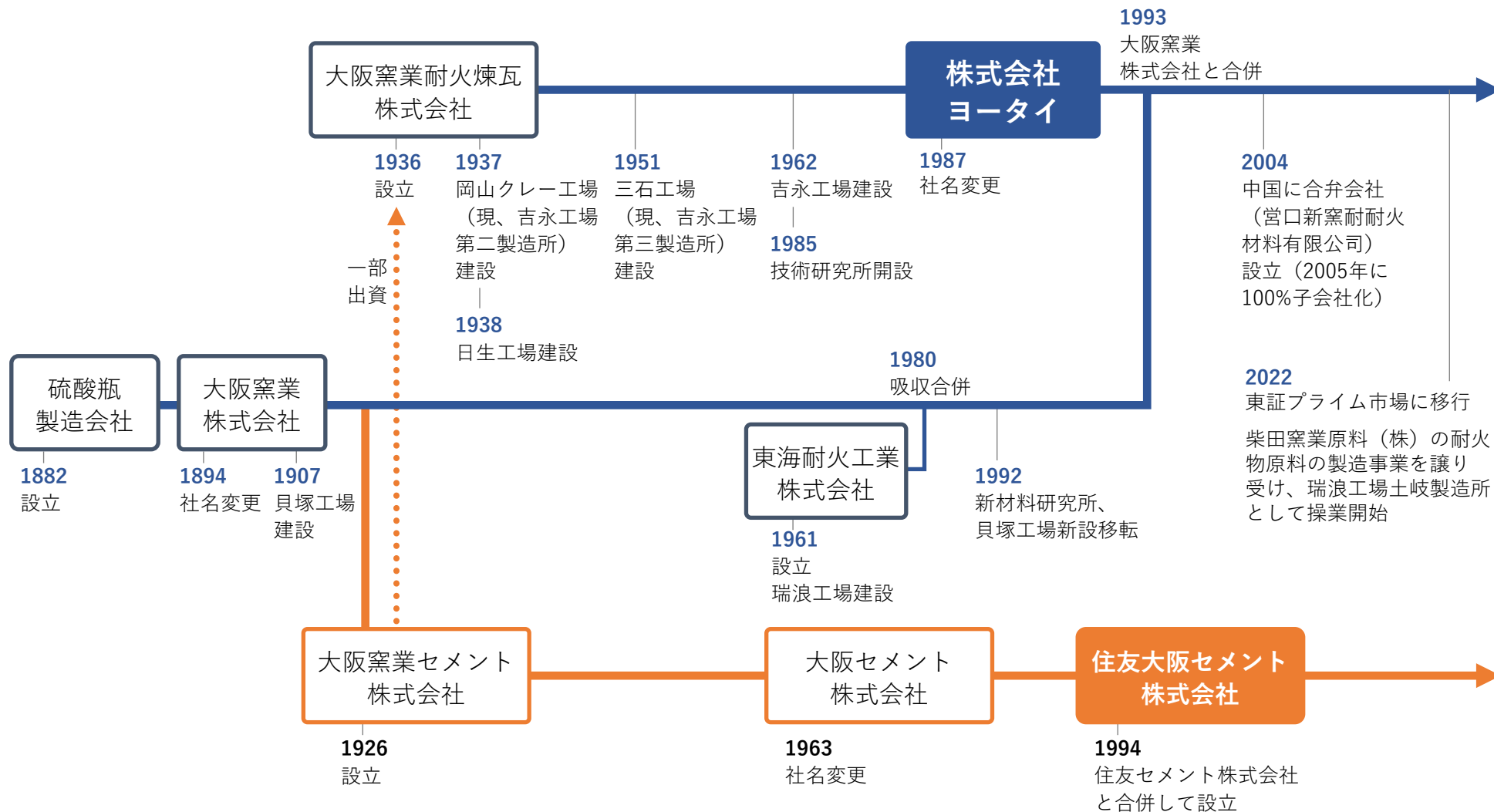


吉永工場新事務所（2022年6月完成）

耐火物で未来を創造

| | |
|-------|---|
| 商号 | 株式会社ヨータイ（英訳名 YOTAI REFRACTORIES CO., LTD.） |
| 創業 | 1936年（昭和11年）8月 |
| 本社所在地 | 〒597-0093 大阪府貝塚市二色中町8番1 |
| 従業員数 | 578名（2023年3月31日現在） |
| 資本金 | 26億54百万円（2023年3月31日現在） |
| 事業内容 | 耐火物・ニューセラミックスの製造販売および関連エンジニアリング事業 |
| 企業理念 | 私たちヨータイグループは、 永年に亘る耐火物製造技術の歴史と経験を後世に継承しつつ、 ヨータイ独自の技術を活かして、 革新する時代に即した新しい技術と製品を創出し、 顧客の満足度を高めるとともに、 社会に貢献する誠実な企業を目指します。 |

鉄鋼、非鉄、セメント、ガラス、焼却炉などの基礎産業とともに発展



特定の系列に属さない

独立系

多業種での確固たる地位

+

誠実かつ機動的な顧客対応

特定の業種の動向に
影響されにくい事業構造

企業文化に裏付けされた

徹底したコストマネジメント

内製化の追求

+

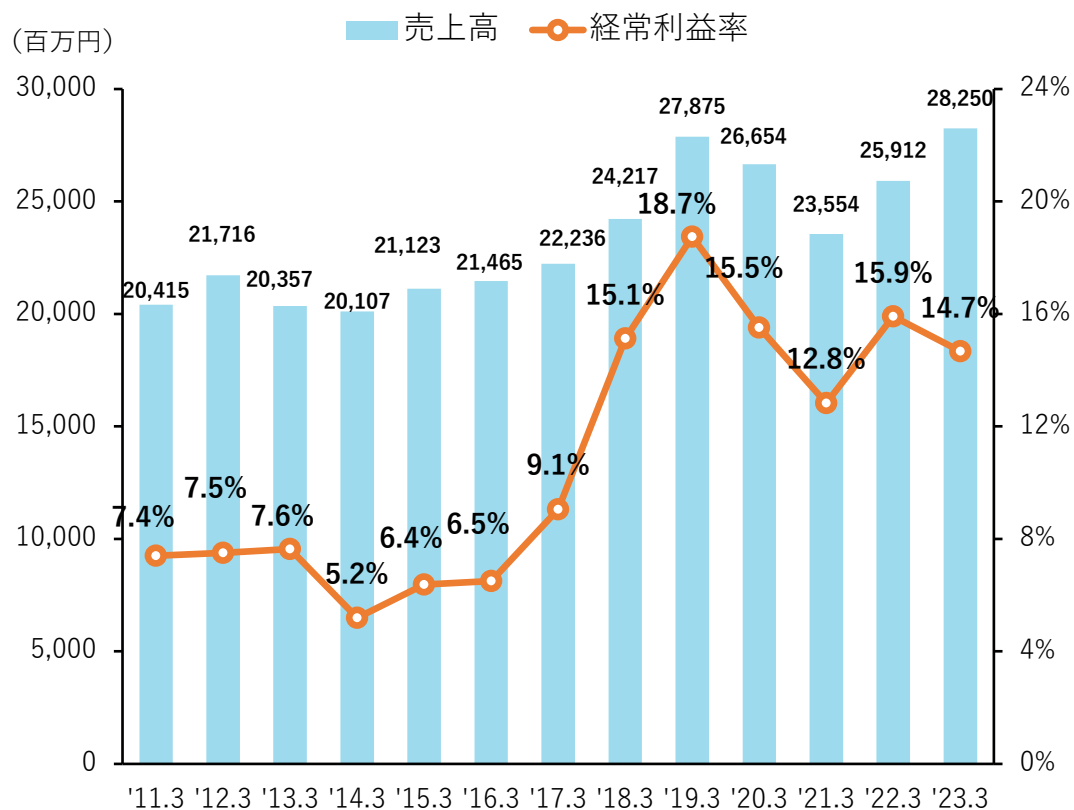
技術営業・多能工

業界トップクラスの収益性

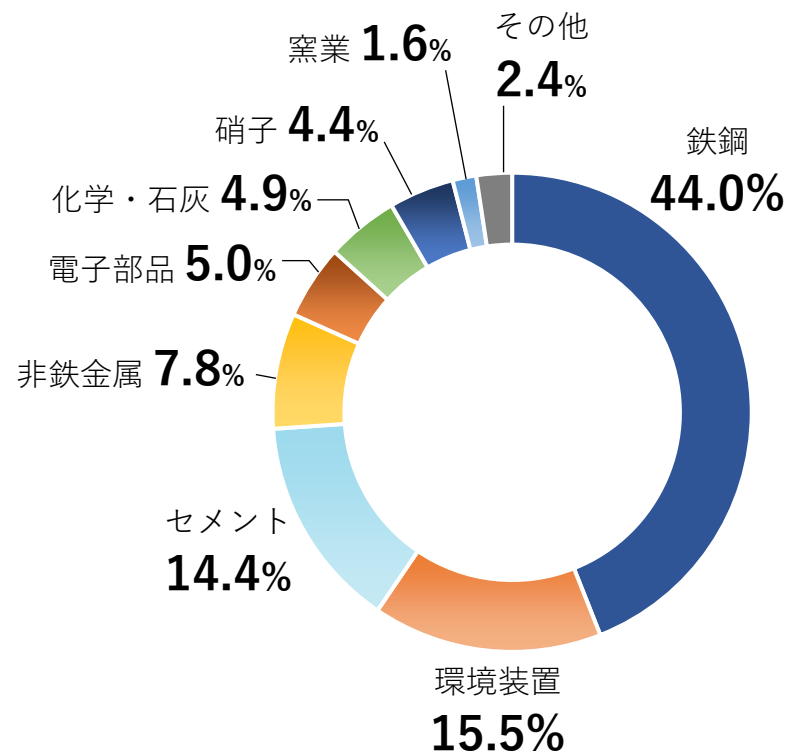
持続的な利益成長を実現

特定の業界の好不況の影響を受けず持続的に成長

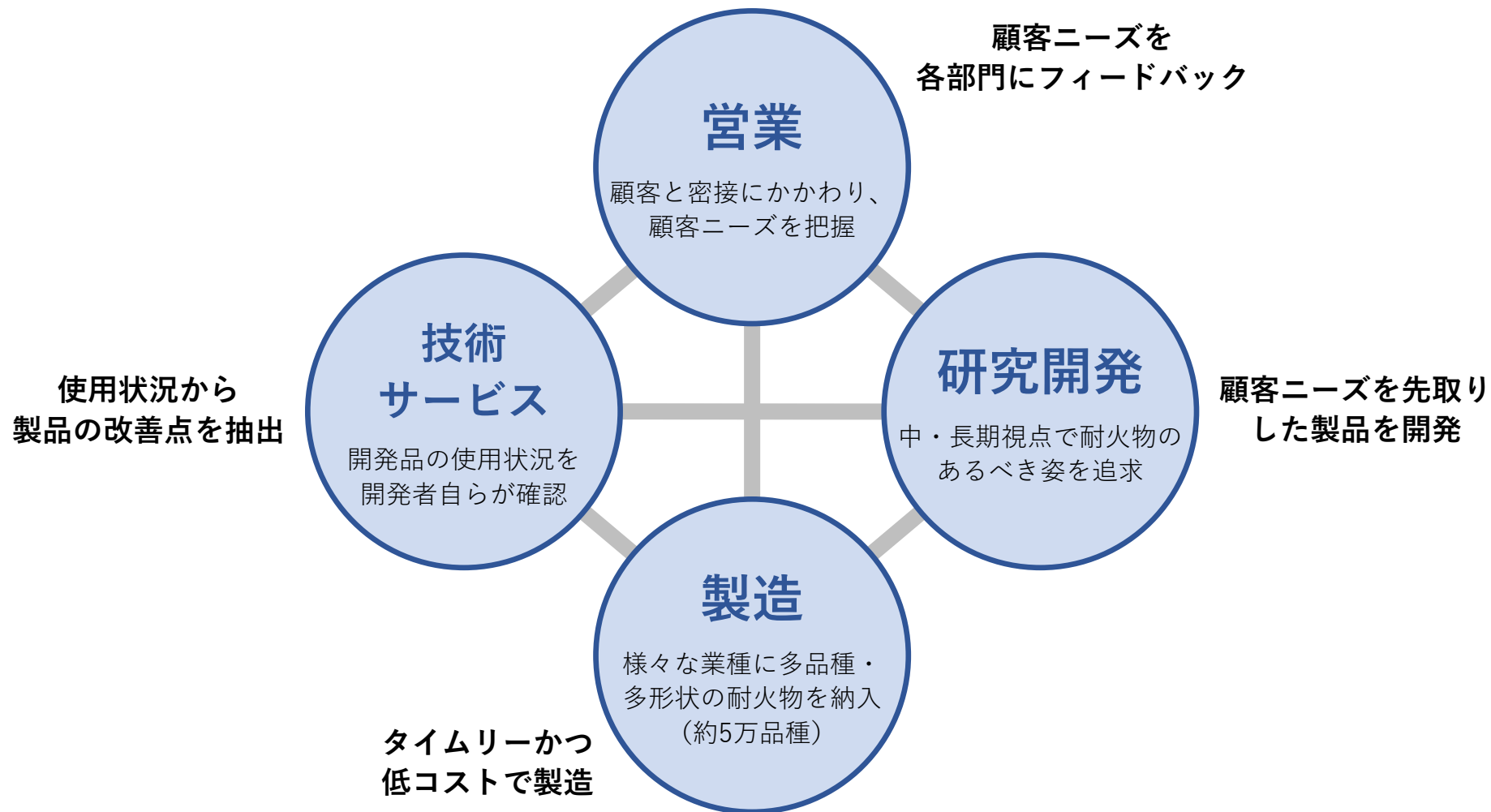
■ 売上高・経常利益率の推移
【連結】



2023年3月期の業種別売上実績 (金額比)
【単体】

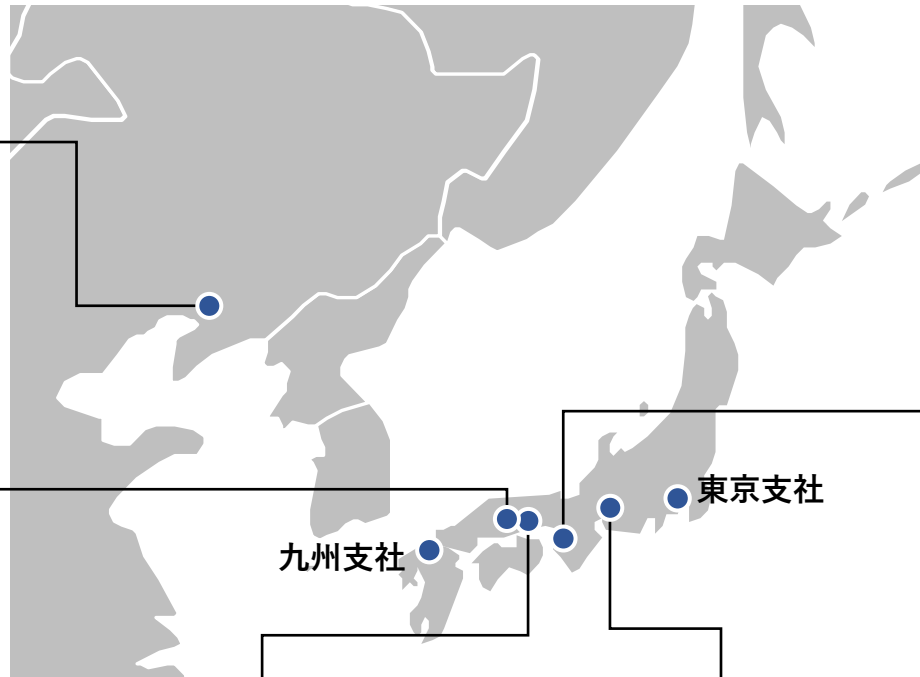


「営業」「研究開発」「製造」「技術サービス」が一体となって価値を提供





営口新窯耐耐火材料有限公司
(中華人民共和国遼寧省)



本社



吉永工場



吉永工場第二製造所

九州支社

東京支社



岡山支社 日生工場
技術研究所
エンジニアリング事業部



名古屋支社
瑞浪工場 (土岐製造所)



貝塚工場 新材料研究所

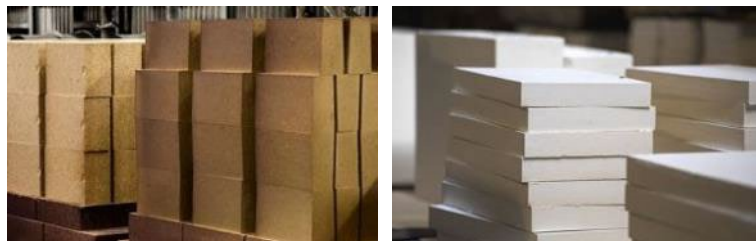
分類

品種

主な用途

定形耐火物

ブロック状やプレート状など種々の形を持つ耐火物。成長分野である電子部品業界で使用される耐火物の多くは定形耐火物です。



スピネル

セメント

マグ・カーボン

高炉・電炉

アルマグカーボン

電炉

粘土質

汎用

高アルミナ

汎用

その他

汎用

定形

不定形耐火物

粉体状や練り土状の耐火物。粉体状製品は現場で水と混ぜ合わせて流し込んだり、吹き付けたりして使用します。練り土状製品は押し付けたり、叩き込んだりして使用します。



キャストター

その他

鉄鋼・環境装置・汎用

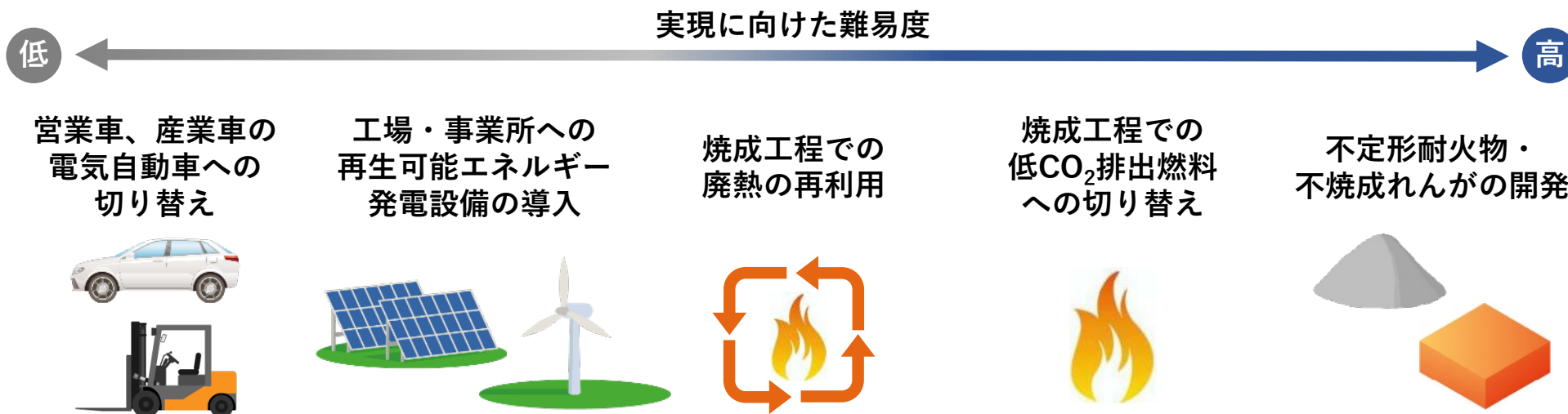
不定形

難易度が高いテーマについても実現に向けた検討を進める

定形耐火物の製造プロセス



具体的な検討テーマ



お問い合わせ先

株式会社ヨータイ 業務部

住所 〒597-0093 大阪府貝塚市二色中町8番1

TEL 072-430-2100

この資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。